

今回、外部講師との連携をしてがん教育授業をした観点を以下の3点に絞ってまとめる。

## 1. 実践しての成果と課題

成果として一番大きいのは生徒が関心を持ってがんについて考えることができたことである。ただ教科書の内容の説明を受ける時より、実際にがんと向き合っている医師の方の話聞くことで、がんという病気を真剣に聞くことができ、自分とかかわりの深い病気として考えることができたと思う。また医師の方の説明の中には初めて知ったことが多く、そのためそのあとの授業で発問した時に印象に残って覚えていた。そういった反応を示したことが一番の成果である。生徒の感想の中でも、医師の方の説明に対する反応が多く、心に残るものになったと感じる。

また、実際に医療現場で働く方の話を聞くことが経験としてあまりないので、そういった面でも成果になったと思う。本校は進路先として医療関係の職業に興味がある生徒が多い。そういった意味でも実際に医療現場で働く方の話を聞いたことも成果である。

一方で課題としては、1時間の授業の中でがんの知識面を行う時間の足りなさを感じた。生徒の関心が高かったので、講師の説明や生徒自身の考える時間や交流する時間を取るとまとめまでいくことができず、次の時間への課題とした。もう少し時間の余裕があれば講師への生徒の質問を取れる時間や実際の医療現場での話も聞くことができたと思うと、講師の説明や質問を中心にするという授業でも良かったと思う。

## 2. 生徒の反応

成果でも記述した通り、生徒の反応は大変良かった。以下に授業に対しての生徒の感想をまとめる。(原文のままなので、少し説明と異なるところはある。)

「がんの知らなかったことを知ることができた。がんは体のあらゆるとこにできると分かった。」

「がんの予防法は普段の生活からでもできると知り、よい生活で過ごしたいと思った。」

「自身もがんをもっていて、抗体が働いていることを知って驚いた。」

「目の水晶体以外のところにはがんになることがあると知ってびっくりした。髪の毛はどうなるのかを知りたい。」

医師に来てもらい、知識の部分で生徒にとって初めて知ったことも多く、自分のこととしてがんを考えている生徒が多かった。がんという病気をきちんと知識として理解を深めることができた。

### 3. 外部講師との連携

今回外部講師と連携してがん教育を行ったが、授業におこなうにあたって、どのように連携をおこなったかを時系列とともにまとめる。

9月下旬：教師主導で指導案（仮案）を作成。作成段階で外部講師の選出のお願い。（知識面の授業のため、医師の方が良いのではという決定。）

10月：外部講師の決定。打ち合わせの日程の確認。教師側で指導案と資料等（パワーポイント）の作成。

11月上旬：外部講師と第1回、打ち合わせ。すでに作成していた指導案や資料を提示し、役割分担や、資料の訂正。

11月中旬～：指導案、資料決定。外部講師とはメールにて追加資料の提示や発問の内容を確認しあう。

11月下旬：授業校にて学校見学及び、設備見学。学校の様子の確認をしてもらう。

12月上旬：授業前に最終打ち合わせ。

授業内容や資料のほとんどは教師の方で作成した。外部講師決定前にほぼ指導案や資料は完成しており、その中で、外部講師の方に説明してもらった方が良いところや質問したいところを事前に打ち合わせして、役割分担を行った。講師の方にその資料を使いながら追加して説明してもらったり、資料の中での内容への質問を答えてもらったりする形にしたので、作成した授業の流れのまま進めていった。そのうえで講師の方に説明や解説してもらうところと、教師の方で生徒に発問したりまとめたりするところの分担をして連携を図った。